

講義名	研究演習 (経)			
講義コード	12220	授業形態		開講期・曜日・時限
担当教員	仲間 瑞樹			後期 月曜日 2時限
			サンパリング・コード	SEM250

学部・学科	演習分野
経済学部 (経済学科・経済情報学科)	ミクロ・マクロ経済学、日本経済、財政、公共経済分野

概要説明

この研究演習の目的ですが、「現在、大学で勉強している様々な知識を、どのように活用し、様々な経済問題の解決に利用できるか」を実感してもらうことです。

そのために、やり方は古いですが、下で指定したテキストあるいは日本経済新聞の論説記事を読み、受講生(2人1組あるいは1人)に発表してもらいます。テキストは現在の日本経済・経営、世界経済のトピックを経済学の考え方で説明したものです。

将来ビジネスパーソンとなる皆さんにとって、ビジネスを進める、あるいは新聞、雑誌、各種ニュースを確認するとき、経済学の知識を活用して考えることは、問題点をより明確にし、問題の解決に至ることが出来ます。そのためのトレーニングを、この研究演習で行います。

具体的には、以下の方法で研究演習を進めます。

- ・割り当てられたテキストの内容を説明
- ・テキストの内容について、発表者自身が疑問に思った事柄を説明
- ・テキストの内容に関連する、現在の日本あるいは世界の経済・経営に関するニュースの紹介と解説
- ・発表者以外の受講者は、発表者に対して必ず1人1回以上質問、意見を述べる
- ・発表者は発表内容に基づいたグループディスカッションのテーマを与え、グループディスカッションの内容を全体に報告。

この研究演習で身につけた知識、そして経済学の考え方を経済・社会・経営問題に適用する力を研究演習、卒業研究で活用してもらいます。所属学生の進路も考慮しながらになりますが、現時点では下のように計画しています。

研究演習で公務員受験希望者が多い場合、公務員受験で必要になる科目の一部、特にミクロ経済学・マクロ経済学・財政学分野の勉強を中心にし、研究演習で行ったタイプの学習(経済・社会・経営問題への経済学の適用)も続けていきます。民間企業希望者が多い場合は、研究演習で行ったタイプの学習(経済・社会・経営問題への経済学の適用)を中心に扱い、ディスカッションの時間を研究演習より多くとる予定です。

4年生になったら、皆さんが2年生、3年生にかけて学んだ事柄、身につけた力を利用し、卒業研究(論文形式あるいはレポート形式)つまり成果物を作成、提出してもらいます。テーマですが、各自興味のある日本あるいは世界の経済・社会・経営問題を1つ選び、選んだテーマに対して経済学の考え方を適用して論じてもらいます。扱う問題点を明確に示し、その問題点を経済学の考え方を活用して説明する。そして問題点の解決方法を提示してもらいます。

テキスト  
河野龍太郎「日本経済の死角」ちくま新書  
日本経済新聞の論説記事

第1回目  
研究演習の説明、自己紹介、アイスブレイキング、  
教員がテキストの概要を説明

第2回目  
テキスト1章の発表(準備4時間)

第3回目  
テキスト1章の発表(準備4時間)

第4回目  
テキスト2章の発表(準備4時間)

第5回目  
テキスト2章の発表(準備4時間)

主な卒業論文のタイトル

まだ4回生のゼミ生がないため、卒業論文のタイトルの紹介ができません。

教員からの要望

- いろんなタイプの経済学部の皆さんを歓迎します。  
例えば以下のようなタイプの人を歓迎します。
- ・大学の経済学部で勉強したこと(していること)を、どのように活用したらよいかわからない人
  - ・大学に入学したけど、なんだか勉強が物足りない、簡単すぎると感じている人
  - ・大学に入学したけど、自分の意見、考えを伝える場がないと感じている人
  - ・現在の日本や世界の経済問題、新聞記事を、大学で勉強した内容を利用して考えたい人
  - ・普段は一人であることが多いけど、少人数のクラスでじっくりと勉強したい人

選考方法

仲間本人が研究演習について説明します。  
指定された期間に必ず仲間本人を訪ねてください。

もし研究演習の募集人数を志望者数が上回った場合は、仲間本人による面接(80%の評価)、GPA(20%の評価)で所属学生を募集します。面接では、志望動機、この研究演習の中で、どのような力を伸ばしたいと考えているか、将来の進路を中心にお尋ねします。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席 必ず確認します。無断の欠席回数が5回に達した時点で、不合格とします。</li> <li>・発表と質問(評価割合 50%) 自身が発表に割り当てられた日に無断欠席した場合、不合格対象者として扱います。</li> </ul> <p>発表内容についての評価事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定されたテキストをしっかり読み、発表をしているか否か。</li> <li>・発表の際、自身の意見や疑問を必ず述べているか否か。</li> <li>・発表内容に関連する話題を自身で探し出し、提示できているか否か。</li> </ul>

到達目標・成果物

到達目標  
経済学部で学習する様々な科目で身につけた知識、経済学の考え方を、現在の日本や世界の経済問題に適用し、問題の背景、解決方法を口頭、文章、プレゼンテーション資料を介して説明できるようになること。

成果物  
各自割り当てられた発表箇所のプレゼンテーション資料、データ分析を行った場合はその分析結果と分析結果をまとめたプレゼンテーション資料、期末課題などを成果物として予定しています。

研究演習での成果物についても、上記の成果物と同じものを研究演習の成果物として予定しています。

教員英字氏名	研究室
Mizuki Nakama	研究棟 6階 2604

最終学歴

大阪大学大学院経済学研究科博士課程後期 中途退学

学位

博士(経済学)

主な研究活動・社会活動・研究業績

- ・研究活動  
ミクロ経済学・公共経済論を中心に研究をしています。例えば以下のようなトピックを研究しています。  
世代重複モデルを利用し、政府の経済活動(課税、公的年金、国債発行など)が経済もたらす影響を分析しています。  
個人が子や親に与える遺産、贈与が経済にもたらす影響を分析しています。  
資産バブル、土地が経済もたらす影響を分析しています。

- ・研究業績(以下では3点のみの紹介にとどめます)  
本間正明・岩本康志著者代表(2019) 『財政論』 培風館  
以下の5章分を執筆  
第2章「政府と市場の役割」  
第3章「公共財の理論」  
第9章「国債と年金」  
第10章「人口の高齢化と少子化」  
第11章「社会資本と人的資本」

趣味・特技

バイク  
ジョギング

所属  
経済学部経済学科

所属学会  
日本経済学会  
日本財政学会  
日本経済政策学会

専門分野  
ミクロ経済学・公共経済論・財政学

担当科目  
(学部担当科目)  
ミクロ経済学  
公共経済論  
経済学入門  
経営特講(日本経済の課題)  
自己発見とキャリア開発A・B

備考  
将来、民間企業だけではなく、公務員を希望されている人も歓迎します。  
一部の公務員採用試験で課される試験科目(ミクロ経済学・マクロ経済学・財政学)、その他、経済数学も含めて、リクエストに応じて、わからない箇所を解説することもできます。

実務経験の有無及び活用

実務経験 無し